



2014年3月13日

株式会社 リクルートマーケティングパートナーズ

教育機関(大学/短大/専門学校等)向けオンライン英会話サービス リクルートの「英会話サプリ」が4月よりスタート ～東京大学、愛知県立大学など、各種大学・専門学校で試験導入済み～

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：冨塚 優）は、グローバル人材育成に伴う英語のコミュニケーション能力向上の必要性に対応し、教育機関（大学・短大・専門学校等）の授業での導入・利用を意識して開発した、「生きた英語」を身につけることができるオンライン英会話サービス「英会話サプリ」（<https://eikaiwasapuri.jp>）を教育機関向けに4月1日（火）より本格スタートいたします。

開発背景

グローバル経済の流れを背景に、多くの企業の海外進出が進む中、新卒採用者への英語力の期待も年々と高まっており、約70%の企業が採用時にTOEIC(R)スコアを参考にし(※1)、英語力を重要視しています。

大学・短大・専門学校といった教育機関においても、グローバル人材の育成が求められる中、学生に対する英語教育では、「読む・書く」だけでなく、「聞く・話す」といったコミュニケーションできるスキル、“生きた英語”を身につけさせることが重要になっています。しかし、「聞く・話す」力を養うのに有効とされる留学に関して、大学進学者の留学意向を調査したところ、「留学意向なし(38.6%)」が「留学意向あり(33.4%)」を上回り、学生は“内向き志向”であると言えます。(※2)

留学したいと思わない高校生の留学したくない理由1位は「英語(外国語)が苦手だから(47.2%)」で、英語への苦手意識がハードルになっています。

そこで、リクルートマーケティングパートナーズでは学生の「聞く・話す」といった英会話能力の向上に貢献するため、**留学前後や就職活動前、授業の補完ツール**として、また「**自学**」の習慣と環境を学内に構築する一歩として、教育機関(大学・短大・専門学校等)向けのオンライン英会話サービス「英会話サプリ」を開発しました。

※1一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 (IIBC) 『2013年上場企業における英語活用実態調査』
※2 「進学センサス2013」リクルート進学総研調べ

「英会話サプリ」サービス概要

TESOL資格を保有し、更に独自のトレーニングプログラムで育成されたフィリピン人の講師と、Skype（無料映像通話ソフト）を利用し、マンツーマンでレッスンを行うサービスです。スマホやPCを使って、ネット上でレッスンを予約（日時・講師・カリキュラム選択）、Skypeでレッスンを受講します。

- 【講師】フィリピン人講師
(筆記・面接試験による選抜後、独自プログラムで定期研修。TESOL資格講師多数。)
- 【カリキュラム】独自開発日常会話（全CEFR準拠）／フリートーク
- 【レッスン】1回25分、1日複数回・毎日受講可能
- 【提供時間帯】7時～25時
- 【料金】月額6,000円（税別）／1 ID
- 【他】CASECが受験可能、管理者用サイト等

(TESOL: Teaching English to Speakers of Other Languagesの略。英語を母国語としない人たち向けの英語国際教授資格。)



リクルートマーケティングパートナーズではこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここにはない、出会い。」を届けることを目指してまいります。

【本件に関するお問い合わせ先】

https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

教育機関への導入・学校授業での利用を意識した開発



4つの特徴

特徴1 「生きた英語」を「生きた場面で」活かすことができる学習メソッド。

国際基準CEFRに基づく「～できること」という能力をベースとしたオリジナルテキストで英会話を学習することで、「どんな場面で」「何が出来るか」を基準に語学を学び、具体的に活用できる「生きた英語」を身につけることができます。

※CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) は、語学のコミュニケーション能力別のレベルを示す国際標準規格。

特徴2 アセスメントと毎回のフィードバックで、いつも成長が実感できる。

CEFRに基づく講師評価と自己評価を双方の視点から実施したり、CASECによる英語能力の点数化によって、自分自身が何ができるようになっていくかを把握でき成長実感を得ることができます。

※ CASEC (Computerized Assessment System for English Communication) は、公益財団法人 日本英語検定協会が基礎開発した英語コミュニケーション能力判定テストです。個人の能力に合わせてテスト問題を変化させていく、適応型のテストシステムですので短時間で、正確な測定が可能です。

特徴3 入学前～就職までの活用。留学への意識も向上もできる。

授業の補習としてだけでなく、留学前・留学後や就職活動前の補助ツール、AO入試後の補習ツールと幅広く利用可能することができます。管理サイトの利用が可能で、学生たちの状況をリアルタイムに把握できます。



特徴4 スマホ・PCで、早朝～深夜まで、どこでも、オンラインで学習できる。

Skype使用でマルチデバイス対応での、マンツーマンレッスン。オンラインだからいつでもどこでも予約が可能で、朝7時～深夜1時までレッスンを受けられます。

試験導入結果 ～利用者の80%以上が満足～

2013年11月より、一部の教育機関で試験導入を実施しておりました。合計35校にご利用いただきました。

【導入事例】

東京大学での試験利用を始め、愛知県立大学外国語学部など海外の学会発表や留学に向けたトレーニングや、課外教材としてご利用いただき、専門学校においては、駿台トラベル&ホテル専門学校にて英語会話力の強化のため授業に導入し、約25名の学生が頻繁にご利用いただきました。

【受講学生の声】

- ・とても楽しい授業で、時間があっという間でした。単語の発音まで教えてもらい、覚えることが出来ました。
- ・楽しんで自分なりに英語を話すことが出来た。授業内容も理解が出来てよかった。I enjoyed today's lesson!
- ・たまに聞き取る事が出来ないこともあったが話のなかで、しっかりと整理して聞き取ることが出来るようになった！また、これからも続けていきたい！
- ・すらすらと自分の言いたいことが言えた。英語をしゃべることに対する抵抗が一切なくなった。
- ・自己紹介の丁寧なやりかたを教えてくれた！とても緊張していたけど先生が優しくしてくれ、すぐ緊張がほぐれた。

【受講学生の満足度】

試験導入の結果、利用者（アンケート回答者1757人）のうち約81%が講師の態度に対して「非常に満足している」と回答。また、約73%が講師の教え方に対して「非常に満足している」と回答した。

参考データ ～必要性あっても取り組めない学生の英語学習実態～

1. 英語学習の必要度・学習率

「英語学習は必要」と考えている大学生は**72.4%**。しかし、「現在学習率」は34.0%と低い。

2. 今後の英語学習意向

「とても学習したい（33.4%）」と「できれば学習したい（52.6%）」を合わせると、**学習意向のある大学生は86.0%**にのぼる。

3. 今後の英語学習で身に付けたいスキル

「スピーキング力」**82.2%**、「リスニング力」**67.5%**、「リーディング力」45.6%、
「ライティング力」27.8%

4. 英語学習の利用経験率

上位は「日本語の学習書」34.4%、「英会話教室」26.4%、「英語映画/ドラマ」23.5%、
「CD/DVDの英語教材」21.7%、「テレビなどの英語講座」18.9%、「スマホなどのアプリ」18.6%で、
「オンライン英会話」は2.1%に依然留まっている。

出典：弊社調査（2014年1月実査）インターネット調査、大学生515名対象

開発者の思い



株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
事業開発室
出羽 亮（でわりょう）

リクルートは1969年から高校生の進路選択に関わる情報提供サービスを行っており、大学・短大・専門学校ともずっとお付き合いさせていただいております。10年後の日本は、異なった社会状況や文化に生まれ育った人たちがさまざまな場面で出会い、言葉を交わし、一緒に仕事をし、生活をともにすることがますます多くなると思います。

そんなグローバル社会を見据えて、教育機関における英語教育がこれまで以上に重要となってきます。これからの学生は常に、外の視点から日本という国を眺め、異文化に属する相手の立場も理解しながらも、自信を持って自分自身の意見を明確に伝える意思と、正確に伝えるコミュニケーション能力を身につけていかねばなりません。

英会話（語学）はそのためのコミュニケーションツール（手段）です。これを操れるようになったときの「楽しさ」は格別です。

リクルートマーケティングパートナーズは、そんな社会に出ていく学生と、学生を教える教育機関を、全力でサポートしていきたいと考えています。